

北九州市立大学入学式 学長式辞

本日、新入生として迎えましたのは、5つの学部と学群を合わせ学士課程に1,488名、4つの大学院研究科に198名、i-Designコミュニティカレッジに44名、合わせて1,730名の皆さんです。

大学全体の学生総数は6,500人を超え、大阪公立大学、東京都立大学につぎ公立大学では3番目の規模を持ち、創立以来70年の歴史を持った総合大学となっています。そしてまた、THE（タイムズ・ハイヤー・エデュケーション）の日本大学ランキングでは、日本にある大学、800校の中で、本学の教育充実度が上位5%の位置にあるとされ、そのトップページで紹介されるなど、高い教育環境を整備してまいりました。

本学は2016年に70周年を迎えた際、30年後の未来に向けて3つのビジョンを策定し、活力ある未来を想像する決意を固めました。それは北型キャンパスの本館ロビーにも掲げられている「地域と歩む」「環境を育む」「世界（地球）とつながる」と言うものです。

これに加えまして、2026年に80周年を迎えるにあたり、「情報で創る」というスローガンのもと、情報教育や情報に関わる研究を強化するビジョンも追加することとなりました。全学的なAI・データサイエンス教育を強化するとともに、「情報イノベーション学部」を2027年度に開講するよう準備を進めているところです。この4つのビジョンをもとに、北九州市立大学をさらにバージョンアップしていきます。

この「情報」や「データ」を巡っては、名著『失敗の本質』で中心的役割を果たした野中郁次郎氏が、『戦略の本質』という書物の中で、次のように語っています。「事実が『目に見える』が、本質は『目に見えない』。データは事

実であるが、戦略的思考にはその背後にある意味やメカニズムを読む洞察力が要請される。」「科学的方法の優れているところは、仮説（信念）を事実（データ）と対応させることによつて否定の余地を残すことである。∴知識を修正・蓄積・体系化するプロセスにこそ科学の強みがある。」

「つめのビジョンである「情報で創る」とは、まさにそうした事で、仮説とデータを行き来しつつ、その背後にある法則性をつかんで、新しい知見を得て課題を解決することにあります。」

野中氏はまた・「万巻の書を読むことは、事象の本質と発展法則を洞察する素竿を提供することになるだろう」と述べています。

皆さんはこれから、社会科学、自然科学、人文科学などと、科学の名を冠した学修を進めていきます。書物を大いに読んで、学習や様々な活動に考察の素材を提供するよう励んでいただきたいと思います。幸い本学には北方キャンパスの図書館におよそ60万冊、ひびきのきやんぱすとしよしつに9万冊の蔵書があるほか、電子ジャーナル、データベースなど情報システムも完備しております。これを是非活用して資料、データの裏にある深い学問的な成果をあげられることを期待いたします。

さて、ご自分の学習、研究テーマを追究しつつもそれが必ずしも首尾よくいくとは限りません、皆さんは「セレンディピティ（serendipity）」という言葉をご存じでしょうか。1983年に刊行されてベストセラーとなった、外山滋比古（とやましげひこ）氏の『思考の整理学』で紹介されている言葉です。もともとは18世紀のイギリス政治家であるホレス・ウォルポールが「セイロンの三王子」という童話から作った造語のようです。本来の開発目標を追究する中で、思いもかけない偶然から、まったく別の新しい発見が導かれる現象を指します。例えば、次のような話があります。アメリカで対

潜水艦兵器の開発を進める中で、音波探知機の実験の際に規則的な音響を探知し、それがイルカの行進音であることが分かりました。そこからirrukaのコミュニケーション研究が一挙に注目を集めることとなったそうです。X線や電子レンジ、付箋のポストイットなど、似たような事例は多数に上っています。

「見えているはずなのに、見えていないこと」が、研究の中で不意に発見されることではないでしょうか。ワクチン開発で有名な細菌学区の父、ルイ・パスツールは、そこで発見する人と発見を見逃す人との差は、「準備された心の有無である」と述べました。

皆さんのこれからの学習や様々な活動に際しては、情報を広く集め、時には異なる角度から成果を検証し、新しい知見を見出していただけだと思います。そして、学習や研究、活動に行き詰まりを感じた際には、パスツールの言葉を是非思い出し、指導教員や同僚、職員の皆さんと対話し、新しい展開を探ってみてはいかがでしょうか。

本学は情報や語学等の教養科目、そして専門科目や多彩な課外活動を通じて、情報スキルを活用しながら、自分、地域、世界、環境を立体的、複眼的に捉える素養を育成したまいます。こうしたことを実現するために、優秀な教授陣を揃えた上に、体系的なカリキュラムを大変よく考えて用意しております。この学修環境の中で、思う存分、勉学に励み、教職員や学生同士で交流を図っていただければと思います。

最初の数か月が大変重要な時間帯です。まずは学生生活の方向性を決定する時期として、よく考え、有意義に過ごし、大局的、戦略的な簡単から学生生活のイメージを持っていただけだと思います。そして、その後の学習や活動が、様々な社会的ニーズに応え、地域や社会、そして人類の持続的で健やかな

ウェルビーイング（well-being）の達成に、大きく貢献されることを
願いました、私からのお祝いの挨拶といたします。

二〇二五年四月四日

北九州市立大学 学長 柳井雅人